

基本政策 I

人間としての在り方生き方の軸をつくる

現状と課題

・今日の子ども・若者が生きる社会は、ますます予測が困難な状況になっており、これまで、社会環境の変化に十分対応できず、学校から社会への移行が円滑に行われていない子ども・若者の実態について、コミュニケーション能力の不足や低い自己肯定感、他者への配慮の不足といった状況が指摘されており、将来、社会的・職業的に自立するために必要な基盤となる能力を育成する必要があります。

・21世紀の日本にふさわしい教育体制の構築に向けた内閣の私的諮問機関「教育再生実行会議」における第十次提言では、「諸外国に比べて子供たちの自己肯定感が低いままでは、『社会に開かれた教育課程』の下でこれからの時代に求められる資質・能力を十分に実現できたことにはなりません。」と述べられている一方で、全国学力・学習調査の結果を見ると、本市の子どもの自己肯定感は、小学生、中学生ともに依然として全国平均よりも低くなっています。

・本市では、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程を促すために、すべての市立学校で「キャリア在り方生き方教育」を推進しており、引き続き、子どもたちに社会的自立に向けて必要な能力や態度とともに、共生・協働の精神を計画的・系列的に育てる教育が求められています。

政策目標

「キャリア在り方生き方教育」をすべての学校で計画的に推進し、すべての子どもに、社会で自立して生きていくための能力や態度とともに、共生・協働の精神を育みます。

主な取組成果

各校におけるキャリア在り方生き方教育の実施については、「キャリア・進路指導担当者研修会」や、学校等訪問研修会等を行い、各校における実施を支援することで、「自己肯定感」や「将来に関する意識」「自己有用感」の高まりにつながりました。

「かわさきパラムーブメント」の視点を踏まえた取組については、「キャリア・進路指導担当者研修会」「かわさき共生＊共育プログラム推進担当者会」「特別支援教育コーディネーター連絡会議」で「かわさきパラムーブメント」について説明するとともに、教職員向けリーフレットを作成・配布し、多様性を尊重する教育の実践を支援しました。

高校生用「キャリア在り方生き方ノート」試作版を作成し、高等学校及び特別支援学校高等部の1学年生徒に配布しました。

キャリア在り方生き方教育リーフレットを作成・配布し、保護者の教育活動への理解を深めることができました。

参考指標

※ 基本政策の目標の達成度を評価する際に参考とするための数値であり、この数値のみをもって基本政策の成果とするものではありません。基本政策の評価は、事業の進捗状況等を踏まえて総合的に行います。

指標名	実績値	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	目標値 R3(2021)
自己肯定感	小6 (H29(2017))	79.9%	87.3%			82.0%以上
	中3 (H29(2017))	70.4%	80.0%			74.0%以上
「自分にはよいところがあると思う、どちらかといえばそう思う」と回答した児童生徒の割合【出典：全国学力・学習状況調査】						
将来に関する意識	小6 (H29(2017))	83.9%	84.6%			86.0%以上
	中3 (H29(2017))	68.4%	70.3%			69.0%以上
「将来の夢や目標を持っている、どちらかといえば持っている」と回答した児童生徒の割合【出典：全国学力・学習状況調査】						
自己有用感	小6 (H29(2017))	92.6%	95.4%			94.0%以上
	中3 (H29(2017))	90.9%	93.7%			92.0%以上
「人の役に立つ人間になりたいと思う、どちらかといえば思う」と回答した児童生徒の割合【出典：全国学力・学習状況調査】						

指標名		実績値	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	目標値 R3(2021)
チャレンジ精神 *	小6	78.8% (H29(2017))	—				81.0%以上
	中3	71.7% (H29(2017))	—				74.0%以上
「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している、どちらかといえば挑戦している」と回答した児童生徒の割合【出典：全国学力・学習状況調査】							
共生・協働の精神 *	小6	87.8% (H29(2017))	—				90.0%以上
	中3	84.3% (H29(2017))	—				85.0%以上
「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある、どちらかといえばある」と回答した児童生徒の割合【出典：全国学力・学習状況調査】							
社会参画に関する意識	小6	42.7% (H29(2017))	52.5%				44.0%以上
	中3	29.6% (H29(2017))	35.7%				31.0%以上
「地域や社会をよりよくするために何をすべきか考えることがある、どちらかといえばある」と回答した児童生徒の割合【出典：全国学力・学習状況調査】							

* 参考指標「チャレンジ精神」及び「共生・協働の精神」について、平成30年度は出典元の調査において設問がなかったため記載をしていません。

主な課題

各校におけるキャリア在り方生き方教育の実施については、より学校の特色を活かしたカリキュラム・マネジメントの確立に向けて、全体計画に基づいた具体性のある研修を行う必要があります。

多様性を尊重する教育の計画的・系統的な推進に向けては、かわさきパラムーブメントへの取組例を紹介しながら各学校の理解を深めていく必要があります。

「キャリア在り方生き方ノート」高校生用ノートについては、試作版の検証を行い、改訂しながら継続して配布していくことが必要です。

キャリア在り方生き方リーフレット配布等による保護者等への理解促進は、持続可能な社会づくり等、今日的課題についての紹介やそれに対する家庭や地域での取組を紹介しながら継続していく必要があります。

教育改革推進会議における意見内容

キャリア在り方生き方教育は非常に素晴らしい取組だと思うが、実際にどのような活動を行っているか分かりにくいので、積極的なアピールをしてもらえるとよい。

自己肯定感が高まっているのは望ましいことだが、「良いところがあると思わない」と思っている子どもにも目を向けていくことが分かるようにした方がよい。

今後の取組の方向性

キャリア在り方生き方教育については、各学校の特色に合わせた効果的な教育活動ができるよう、学校へ訪問して当該校の全体計画に基づいた指導助言を行うなどの具体性のある研修等を行って支援し、すべての子どもに、社会で自立して生きていくための能力や態度を育みます。

さまざまな研修の機会を捉えてかわさきパラムーブメントの取組事例を紹介するとともに、特別活動や道徳教育など既に実施されているさまざまな教育活動を通じて「共生・協働の精神」を育成できるよう、かわさきパラムーブメントのレガシーとそれに結びつく教育活動についての周知を行いながら、各学校における取組を支援していきます。

高校生用ノートについて、各学校での実践を通して検証を行い、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返るためのより良いポートフォリオとなるよう、必要な改訂を加えながら引き続き配布していきます。

保護者や地域の理解につなげられるよう、引き続きリーフレットの配布等を行うとともに、さまざまな広報の機会を捉えて、キャリア在り方生き方教育の取組を周知していきます。

※「良いところがあると思わない」と思っている子どもに対しては、「かわさき共生 * 共育プログラム」の実施や、キャリア在り方生き方ノートの活用等により、自分の成長を振り返る活動を継続し、自己肯定感や自己有用感を育てていきます。

施策1	キャリア在り方生き方教育の推進				
概要	<p>教育プランの基本目標である「自主・自立」「共生・協働」の実現に向けたキャリア在り方生き方教育を推進していきます。</p> <p>発達の段階に応じた福祉教育の推進など、「かわさきパラムーブメント」の視点も踏まえた取組を計画的・系統的に推進します。</p> <p>教師用資料である「キャリア在り方生き方教育の手引き」の活用や研修会などを通じて、全校での取組を支援していきます。</p> <p>高等学校における「キャリア在り方生き方ノート」を作成・配布し、学校での活用を支援していきます。</p>				
事務事業名	キャリア在り方生き方教育推進事業 ★				
担当課	教育改革推進担当	関係課			
事業の概要	<p>将来の社会的自立に必要な能力や態度を育む教育を全校でより効果的に実践するため、手引の配布や研修により、「キャリア在り方生き方教育」についての理解を深めるとともに、指導体制の構築や家庭との連携を図ります。</p>				
事業計画	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	
	<p>研究推進校での研究結果等を活かした、キャリア在り方生き方教育の推進</p>	→			
	<p>キャリア在り方生き方教育の実施 ・各校における取組の実施</p>	→			
	<p>多様性を尊重する教育の計画的・系統的な推進に向けた支援 ・教職員の理解を深める研修の実施</p>	<p>・研修の実施及び校務用のネットワークを活用した実践の周知</p>	→		
	<p>「キャリア在り方生き方ノート」を活用した取組の推進 ・高等学校用ノート試作版の作成</p> <p>広報等による保護者等への理解促進 ・リーフレット配布等による広報実施</p>	<p>・高等学校用ノートの作成・配布</p>	<p>・活用推進</p>	<p>・活用推進及び小・中学校用ノートの見直し検討</p>	
実施状況					
<p>①各校におけるキャリア在り方生き方教育の実施については、各校における実施を支援する、全市担当者向け研修会・説明会を年間3回実施しました。また、学校等訪問研修会等を41回実施しました。</p> <p>②「キャリア・進路指導担当者研修会」「かわさき共生*共育プログラム推進担当者会」「特別支援教育コーディネーター連絡会議」で「かわさきパラムーブメント」について説明するとともに、教職員向けリーフレットを作成・配布し、多様性を尊重する教育の実践を支援しました。</p> <p>③高校生用「キャリア在り方生き方ノート」試作版を作成し、高等学校及び特別支援学校高等部の1学年生徒に配布しました。</p> <p>④キャリア在り方生き方教育リーフレットを作成・配布し、保護者の教育活動への理解を深めました。</p>					
課題と今後の取組					
<p>①各校におけるキャリア在り方生き方教育の実施については、より学校の特色を活かしたカリキュラム・マネジメントの確立に向けて、全体計画に基づいた具体性のある研修を行っていきます。</p> <p>②多様性を尊重する教育の計画的・系統的な推進に向けては、かわさきパラムーブメントへの取組例を紹介しながら各学校の理解を深めていきます。</p> <p>③「キャリア在り方生き方ノート」高等学校用ノートについては、試作版の検証を行い、改訂しながら継続して配布していきます。</p> <p>④リーフレット配布等による保護者等への理解促進は、持続可能な社会づくり等今日的課題についての紹介やそれに対する家庭や地域での取組を紹介しながら継続していきます。</p>					